



芦屋ハイランド
自治会
【地区防災計画】

令和 7 年 6 月

芦屋ハイランド自主防災委員会
【芦屋ハイランド自治会】

1 基本方針と組織体制

〈基本方針〉

災害発生時には、土砂崩れ等による交通網の寸断・火災の同時発生等により、消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。

奥池南町（芦屋ハイランド）は、市街地より奥山精道線（県道344号線）および芦有ドライブウェイを通過した先に存する、六甲山の豊かな自然に囲まれた地域に存する住宅街ですから、災害発生に際しては、「公助」のみに頼ることなく、

- ・自助…「家庭で日頃から災害に備えたり災害発生時には事前に避難したりする等、自分で自分の身を守ること」
- ・共助…「地域の方々と協力し合い、助け合って避難行動要支援者の避難に協力したり、消火活動を行ったりする等、周りの人たちと助け合うこと」

（参考）公助…「市役所・消防・警察などによる公的支援のこと」

がきわめて大切になります。

私たち、奥池南町（芦屋ハイランド）で生活する住民は、「自分たちの地域を自分たちで守る」ことを共通認識として持ち、地域住民で相互に助け合い、災害に強いまちづくりを進めていきたいと考えます。

そのための計画を具体的に推進していくために、地域住民が主体的に活動できる防災体制を整備し、行動理念・行動規範として「地区防災計画」を定め、地区防災力向上に取り組んでいきます。



奥池地区

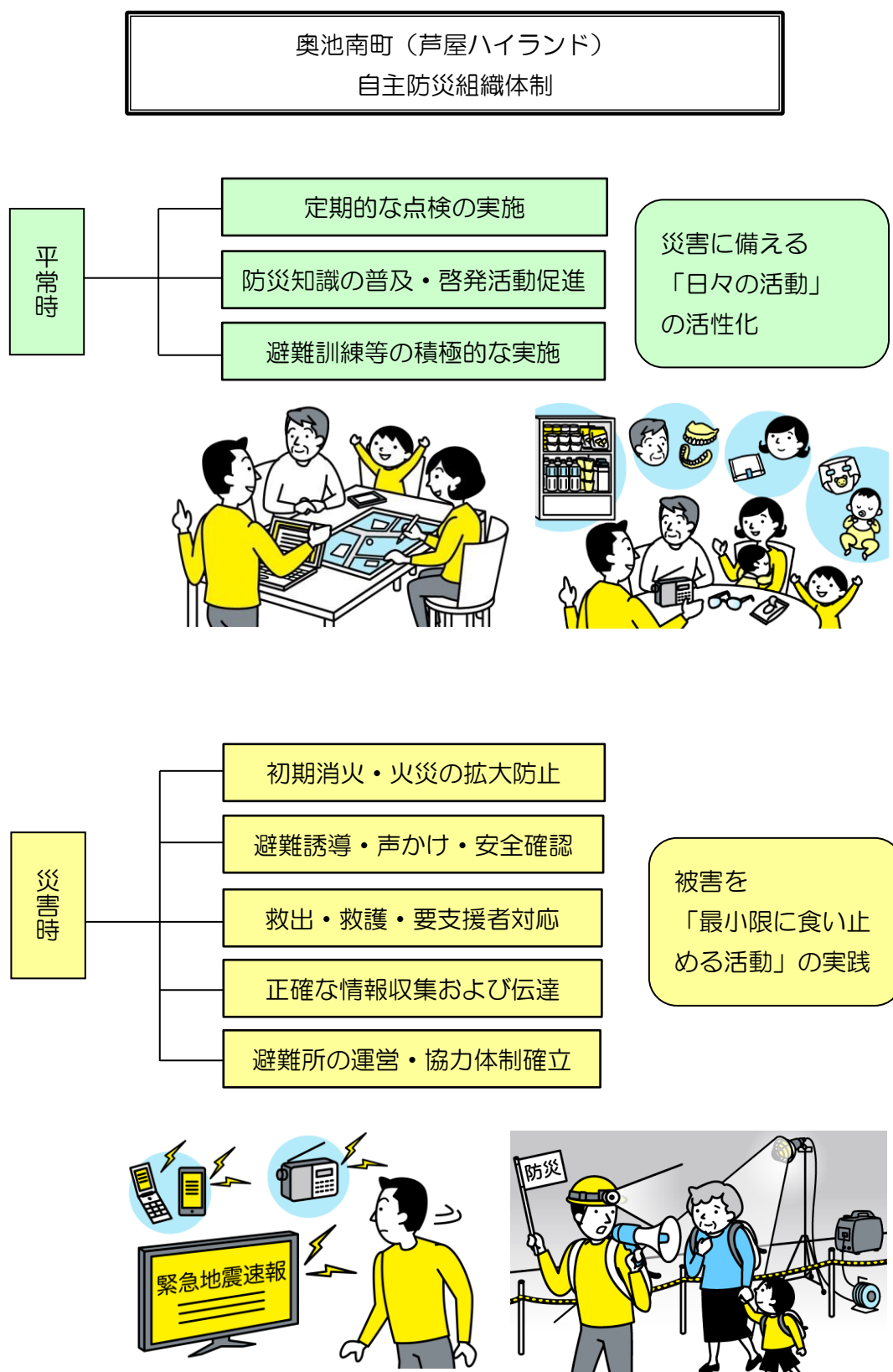


奥山精道線



芦有ドライブウェイ

・組織体制



2 計画対象地区と策定主体

(1) 計画対象地区

「芦屋ハイランド地区防災計画」は以下の地区を対象として定めます。

対象地区名	世帯数	人 口
奥池南町 (芦屋ハイランド地区)	394 世帯	782 人

(令和6年11月1日現在)

(2) 計画策定主体

「芦屋ハイランド地区防災計画」は下記の団体が定めます。

団体名称	所 在 地	平常時の活動拠点
芦屋ハイランド自主防災委員会 芦屋ハイランド自治会	芦屋市奥池南町	奥池集会所



3 地区の特性と予想される災害および問題点

(1) 奥池南町（芦屋ハイランド地区）の特性

- 丘陵地および山地であり、起伏が激しく、土砂崩れ・がけ崩れの危険性が高い。
- 地層は主として六甲花崗岩層の岩盤である。花崗岩は基本的には硬い岩石だが、マサ化（鉱物同士の密着が崩れ、バラバラになって砂状になる）するともろくなり、崩れやすい。
- 地区内に「土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）」、「土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）」、「土砂災害警戒区域（土石流）」、「山腹崩壊危険区域」、「土石流危険渓流」を有する。
- 地区内に「内水浸水想定区域（浸水深：0.3m 未満）」を有する。
※1時間に降る雨が147mmと想定したシミュレーションを行い、浸水が想定される区域
- 国立研究開発法人 防災科学技術研究所の「地震ハザードカルテ」によると、今後30年間にある震度以上の揺れに見舞われる確率の値は以下のとおりである。

震度5弱	78.4%
震度5強	38.9%
震度6弱	6.4%
震度6強	0.7%

※ハイランド公園付近におけるデータ（2024年）

- 標高の高さ等から、津波、高潮、洪水の危険性を想定する必要性はない。



奥山精道線の花崗岩



ハイランド公園

(2) 予想される災害および問題点

- ・集中豪雨（ゲリラ豪雨）や台風等による、がけ崩れ・土砂崩れ等による被害が想定される。

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命・身体に危険が生じるおそれがある。

土石流が発生した場合に、住民等に危害が生じるおそれがある。

溪流から、土砂と水が一気に流れ出すおそれがある。

※芦屋市防災情報マップで、「土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）」、「土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）」、「土砂災害警戒区域（土石流）」、「山腹崩壊危険区域」、「土石流危険溪流」、「内水浸水想定区域」の該当地域を確認すること。

- ・地震その他の災害発生により、奥山精道線（県道344号線）および芦有ドライブウェイが寸断された場合、物資輸送が困難になるおそれがある。

地域住民一人ひとりが各家庭において、平常時からの備蓄の確認、食糧・飲料水・衛生用品等の備えを万全にしておかなければならない。

※防災備蓄に関しては、芦屋市消防本部奥池分遣所およびシスメックス（株）グローバルコミュニケーションセンター（避難所）に一定量が確保されている。

道路の寸断が長期にわたって発生した場合は物資の空輸などを考慮しなければならない。

※緊急時においては、奥池遊びの広場がヘリポートの役割を果たすことになる。

- ・高齢者等、「避難行動要支援者」に対する対応、個別避難計画の作成を進めていく必要性について。

奥池南町（芦屋ハイランド地区）における高齢化率は約40%とされている。自力での避難行動等が難しい「要支援者」に対する「共助」の必要性を地域で共有することが求められる。

- ・避難所として設定されている奥池集会所が「土砂災害警戒区域（土石流）」に該当しており、大雨・土砂災害時に利用することができない。また、大阪ガス（株）奥池ロッジの前面道路が「土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）」に該当している（大雨・土砂災害時の利用自体は認められている）。

奥池南町（芦屋ハイランド地区）における高齢化率は約40%とされている。自力での避難行動等が難しい「要支援者」に対する「共助」の必要性を地域で共有することが求められる。

- ・避難所が街区から比較的遠隔に位置しており、徒歩での避難が困難なケースが想定される。また、自動車利用の場合は避難所までの道路渋滞が懸念され、通行の妨げとなる可能性がある。

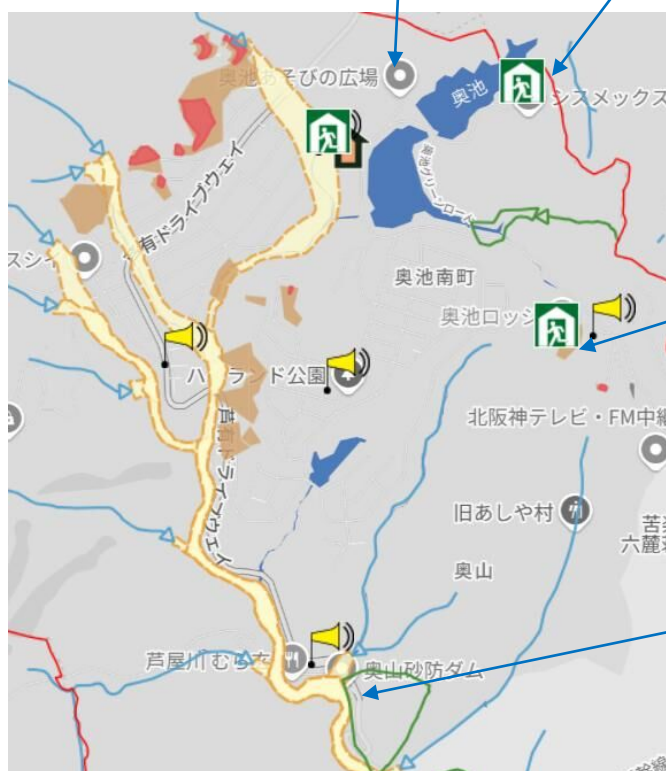
災害発生状況等により、自宅待機の必要性等も想定される。迅速・適切な判断および行動、平常時からの心がけが地域住民一人ひとりに求められる。



あそびの広場（ヘリポート）



シスメックス



奥池ロッジ



奥山精道線

4 活動内容

(1) 平常時の取組

芦屋ハイランド地区の地域住民一人ひとりの力が十分に発揮できるよう、地域全体で協力し合い、防災活動に積極的に取り組んでいきます。

① 定期的な点検の実施

地域についてよく知る機会を積極的につくり、危険な場所や防災上問題のある場所などを確認し、改善に向けた働きかけ・情報共有などを実践していきます。また、地域の資機材や備蓄状況を確認し、点検や使い方等を定期的に確認していきます。



② 防災知識の普及・啓発活動推進

地域住民一人ひとりが防災について高い関心を有し、積極的に自分のできる準備を進めていけるよう、地域住民への防災知識の普及・啓発活動および情報提供を、集会や訓練等とおして実践していきます。

③ 避難訓練等の積極的な実施

災害発生時において、迅速・的確に正しい行動をとることができるよう、地域住民への積極的な参加を呼びかけ、避難訓練等を定期的に実施していきます。

(2) 災害発生時の取組

災害発生時は、公共機関と連携・協働し、地域住民で力を合わせて被害の最小限化に向けて積極的に活動していきます。

① 初期消火・火災の拡大防止

災害発生時において、出火防止のための活動や初期消火活動を、地域住民で協力し合って行い、火災の延焼を防ぎ被害の拡大を阻止します。

② 避難誘導・声かけ・安全確認

地域住民で協力し合いながら、避難所等の安全な場所へと住民を誘導します。また、誘導しながらの安全確認のための声かけ、相互に無事を確認できるような地域関係を構築していき、迅速・確実な避難を実現します。災害発生状況をふまえ、避難経路を適切に確保します。自宅待機が求められる場合も連絡手段を確保し、声かけ・安全確認に努めます。



③ 救出・救護・要支援者対応

負傷者や倒壊した家屋等の下敷きになった人たちの救出・救護活動等を地域住民で協力して行います。救出作業等にあたっては危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意して実践します。

すぐに医師による治療が受けられるとは限らないため、負傷者の応急手当を行い、救護所へ搬送します。

災害時に大きな被害を受けやすいのは、高齢者、障がい者など、災害発生において助力を必要とする避難行動要支援者であるため、地域住民で協力し合いながら適切に支援を行います。また、適切な支援を確実なものとするため「個別避難計画」の策定をめざします。

目や耳の不自由な地域住民にも避難情報等が確実に伝達されるように、また、避難経路等の危険物の除去等の積極的な改善に努めます。

また、一人の避難行動要支援者に複数の避難支援者が対応できる体制づくりをめざします。

気持ちよく、相互に頼られる環境を築くため、避難行動要支援者に対する円滑なコミュニケーションの実現・信頼関係の創出につとめていきます。



④ 正確な情報収集および伝達

公共機関などから正確な情報を収集し、地域住民に迅速に伝達し、共有します。また、地区の被害状況等を早急に取りまとめ、公的機関へ報告します。

⑤ 避難所の運営・協力体制確立

地域で必要な物資を迅速に把握し、公共機関とも連携しながら、必要に応じて炊き出しなどの給食・給水活動を実践します。また、食料や飲料水、応急物資などを配分します。プッシュ型支援、プル型支援の両面において対応できる体制を構築し、すみやかに必要な物資が行きわたる体制を整えていきます。

・プッシュ型支援

国が被災都道府県からの具体的な要請を待つことなく、避難所避難者への支援を中心に必要不可欠と見込まれる物資を調達し、被災地に物資を緊急輸送するしくみ。

・プル型支援

被災地へのヒアリングをふまえ、要請があった支援物資を被災地に送るしくみ。



5 地区の防災対策（具体的な対策）

（１）防災組織体制

組織名称等	地区の状況		
芦屋ハイランド 自主防災委員会	世帯数：394 世帯 人 口：782 人 （令和6年11月1日現在）		
1 組織体制	役職および設置班		
	自主防災委員会委員長 責任者として、災害発生時には司令塔としての役割を担います。		
	総務班 全体の調整役を担います。災害発生時は対策本部として機能します。		
	情報班 災害関連情報の収集、住民への正確・迅速な伝達役を担います。		
	消火班 初期消火活動に従事し、火災等の被害の拡大を防止します。		
	救出・救護班 負傷者の救出、搬出活動に従事し、医療機関等との連携役を担います。		
	避難誘導班 住民の避難誘導に従事し、安全な避難行動を支援します。		
	給食・給水班 給食・給水活動に従事します。支援物資の配分等に取り組みます。		
	福祉班 要配慮者（避難行動要支援者）への支援に従事します。		
2 避難場所等	施設名	電話番号	管理者
	奥池集会所	0797-32-0763	小野・八田
	奥池ロッジ	0797-38-0071	大阪ガス（株）
	シスメックス	0797-32-3690	シスメックス（株）
3 避難経路	防災マップのとおり・下記参照		
4 緊急時の 連絡先	連絡先		電話番号
	芦屋市役所（災害時の情報提供）		0797-38-2093
	奥池集会所		0797-32-0763
	消防署（奥池分遣所）		0797-34-0119
	警察署（芦屋警察署）		0797-23-0110
	病院（市立芦屋病院）		0797-31-2156
	関西電力		0800-777-3081
	大阪ガス		0120-719424
	災害用伝言ダイヤル（録音時）		171 ⇒1 を選択

5 その他 特記事項	災害用伝言ダイヤル（再生時）	171 ⇒2 を選択
	水道（お客様センター）	0797-38-2082
	電話（NTT 西日本）	0120-444113



芦屋市役所



消防署・奥池分遺所



芦屋警察署



市立芦屋病院

近くの避難場所や、消防署など、
避難ルートを確認しておきましょう！



（２）活動体制

・班編成と各班の役割

班 名	平常時の役割	災害時の役割
総務班（本部） 	各班の日常的な活動の全体調整、確認 関係諸機関との事前調整	被害・避難状況の全体把握 各班の具体的活動の全体調整 関係諸機関との調整
情報班 	啓発・普及・広報活動 日常的な情報提供	公共機関等からの情報収集 住民への正確・迅速な伝達
消火班 	器具・用具等の整備・点検	消火栓・消火器の利用、バケツリレー等による初期消火活動
救出・救護班 	資機材・器具の整備・点検	負傷者の救出・応急手当・救護所等への搬送等の活動
避難誘導班 	避難経路の点検	住民の避難誘導
給食・給水班 	器具・用具等の整備・点検	炊き出し等の給食・給水活動 支援物資の迅速な配分
福祉班 	要配慮者（避難行動要支援者）の把握、支援体制の整備	要配慮者（避難行動要支援者）への支援活動

(3) 防災関連施設

① 医療機関

種 別	名 称	住 所	連絡先
病 院	市立芦屋病院	〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1	0797-31-2156
病 院	芦屋セントマリア病院	〒659-0012 芦屋市朝日ヶ丘町8-22	0797-23-1771
病 院	笹生病院	〒662-0964 兵庫県西宮市弓場5-37	0798-22-3535

② 要配慮者（避難行動要支援者）関連施設

名 称	住 所	連絡先	備 考
該当なし			現時点では挙げられる施設はありません。

③ その他施設

名 称	住 所	連絡先	備 考
奥池集会所	〒659-0004 奥池南町34-4	0797-32-0763	



笹生病院

芦屋セントマリア病院



(4) 防災資機材等

① 保有防災資機材…保管場所(倉庫): 消防奥池分遺所 芦屋市奥池南町 34-5

	品名	数量	備考
初期消火用資機材	可搬式動力ポンプ	1	池や川の水を吸水し、放水する。燃料 50:1 3.5 ㍓
	吸水管一式	1	可搬式動力ポンプに接続し、使用する。
	ホース	5	動力ポンプ又はスタンドパイプに接続し延長する。
	組立簡易水槽(消火用)	1	防火用水を貯水する。吸管支持スタンド付。
	スタンドパイプ	1	消火栓口に接続し、吸管又はホースに接続する。
	キーハンドル	1	消火栓キーを開閉する。
	媒介金具 65⇒50・50⇒65	各 1	ホースを動力ポンプ又はスタンドパイプへの接続時に使用する。
	菅そう	1	ホースの先端に接続、放水する。
	消火器	1	蓄圧式 ハツタ PP-10C
	ヘルメット	20	活動時、頭部を保護する。
救助用資機材	ハンドマイク	3	警報、広報時に使用。電子サイレン付。
	ガスパワー発電機	1	エネポ 定格出力 900VA 最大 2.2 時間
	ガスボンベ	18	
	ガスパワー発電機用エンジンオイル	1	ホンダ 4サイクルオイル
	投光器	1	発電機に接続 500W
	投光器用三脚	1	投光器とセット
	コードリール	1	延長コード 30m
	可搬式ウィンチ(リール)	1	重量物にワイヤーを掛け、移動させる。横引き 2.5 トン、縦引き 1.6 トン
	救命ロープ	2	1 巻 200m
	スコップ	10	
	ツルハシ	10	
	ジャッキ	10	重量物のジャッキアップ 800 kg
	二連梯子	1	全長 4.43m・縮長 2.85m・重量 11.5 kg
	バール	20	
	のこぎり	10	
	おの	10	
	大ハンマー	10	
	ボルトクリッパー	5	切断径 10mm
	ペンチ	10	切断能力 3.5mm
	災害救助工具セット	1	6点の道具が収納されています。
	担架	2	負傷者の搬送に使用します。
	簡易担架(スリムタイプ)	3	負傷者等の搬送に使用します。

	手袋	10	活動時、手部を保護する。滑り止め付
救護用資機材	防塵マスク（20 枚入り）	4	使い捨て。
	防水シート	3	寸法 3.6m×3.6m
	水中ポンプ	1	吐出口径 50mm 20mホース 吐出量 120 ㍓/分
	簡易ベット	5	
	救急医療セット	3	約 20 人用。外傷用 平成 27 年度に更新
	簡易トイレ	5	簡易トイレスペア袋 40 含む
	テント（三方幕付）	1	鉄骨フレーム 3.6m×5.4m
	毛布	10	アルミ圧縮バック
	炊飯装置（BOX 付）	1	LPGガス（10K用）及び蒔用 釜入り水量 55 ㍓（30 升）
	釜（かまど付 7 升）	3	薪用 釜入り水量 12.6 ㍓（7 升）
	飲料用水槽（組立式）	1	飲料水の貯水 1 トン
	折りたたみ式吸水容器	1	容量 10 ㍓ 10 枚セット
	食器 5 点セット	30	キャンプ食器 5 点セット
	リヤカー（折りたたみ式）	2	折りたたみ式 ノーパンクタイヤ
	ラジオ	2	手回し充電機能
	非常用ローソク	3	12 時間使用可 マッチ・コップ付
	台車	1	トラスコ社製 芦屋市

令和 6 年 3 月 31 日現在・芦屋市より情報提供

奥池分遺所 備蓄倉庫



② 緊急物資備蓄内容一覧表

消防奥池分遣所 防災倉庫			備考	点検日	合計	賞味期限
				2023/5/2		
食料・飲料水	食料	アルファ化米	5種混合	50袋×6箱 =	300	2030/4/30
		ビスコ		60袋×5箱 =	300	2029/12/31
		7年保存パン		50袋×6箱 =	300	2028/3/31
	飲料水	飲料水(水)	500ml	24本×13箱 =	312	2039/8/31
生活用品等	生活用品等	毛布	旧	10枚×13箱 =	130	
		毛布	旧	10枚× =	0	
		ダンボールベッド	暖々ベッド		0	
		ダンボールベッド	楽々ベッド		0	
衛生用品等	大人用紙オムツ		サイズ	枚数		使用期限
			M(20枚入り)	20枚×2パック× =	120	2箱
			L(17枚入り)	17枚×2パック× =	130	3箱
	テープ	乳幼児用オムツ	新生児用 (90枚入り)	90枚×1パック× =	0	0箱
			S(82枚入り)	82枚×1パック× =	0	0箱
			M(76枚入り)	76枚×1パック× =	0	0箱
	パンツ	乳幼児用オムツ	M(74枚入り)	74枚×1パック× =	0	0箱
			L(56枚入り)	56枚×1パック× =	0	0箱
			ビッグ (50枚入り)	50枚×1パック× =	0	0箱
	旧	おしりふき	64枚	3パック×12個× =	0	0箱
		生理用品		× × =		
		尿取りパッド	30枚	30枚×8パック× =	0	0箱
	新	おしりふき	64枚	3パック×12個×1箱=	2,304	2026/1/25
		生理用品	11枚	2パック×12個×1箱=	264	2026/1/25
		尿取りパッド	24枚	24枚×8パック×1箱=	192	2026/1/25
10年保存衛生用品等			S	× × =	0	
	大人用おむつ(テープ兼用) 【同一梱包】 テープ式にもなるパンツ		M-L	14枚×2パック×1箱=	28	2031/1/26
			L-LL	12枚×2パック×1箱=	24	2031/1/26
	乳幼児用紙おむつ(テープ) 【同一梱包】		新生児用	90枚×1パック×1箱=	90	2031/1/26
			S	82枚×1パック×1箱=	82	2031/1/26
			M	76枚×1パック×1箱=	76	2031/1/26

	乳幼児用紙おむつ(パンツ) 【同一梱包】	M	74 枚× × =	0	—
		L	56 枚×2パック×1 箱=	112	2031/1/26
		ビッグ	50 枚×1パック×1 箱=	50	2031/1/26
	生理用品				
トイレ	サニタクリーン	本体			
		袋			
	お花摘み広場	本体		0	
		袋		0	
ガソリン缶			1L×18 缶／箱× =	0	

※新おしりふき・生理用品・尿取りパッドは納品日から5年を使用期限とする (芦屋市役所より情報提供)

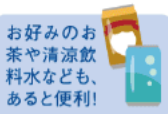
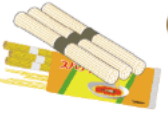
③ 必要となる資機材等

使用目的	必要となる資機材
①情報収集・伝達	メガホン、ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、メモ帳、マジック 等
②初期消火	小型ポンプ、発電機、消防用ホース、消火器、ヘルメット、バケツ 等
③水防	救命ボート、ブルーシート、シャベル、つるはし、スコップ、ロープ、くい、土のう袋、ゴム手袋 等
④救出	はしご、のこぎり、スコップ、バール、なた、ジャッキ、ウインチ、ハンマー、チェーンソー、ロープ、防煙・防塵マスク 等
⑤救護	担架、救急箱、テント、毛布、シート 等
⑥避難所運営協力	発電機、警報器具、投光器、標識板、リヤカー、ライト、寝袋 等
⑦給食・給水	炊飯器、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク 等
⑧訓練・啓発活動	各種訓練用装置、火災警報器、放送機器、視聴覚機器（ビデオ、投影機等）等
⑨その他	ビニールシート、携帯電話機用充電器 等

※資機材を定期的に検討する機会をつくり、優先順位を考慮して計画的に整備していきます。



【参考】1週間分（大人2人の場合）の備蓄

家庭備蓄の例		1週間分 / 大人2人の場合	
必需品	 水 2L×6本×4箱 ※1人1日およそ3L程度 （飲料水+調理用水）	 お好みのお茶や清涼飲料水なども、あると便利！	 カセットコンロ・カセットボンベ×12本 ※1人1週間およそ6本程度
主食 エネルギー 炭水化物	 米 2kg×2袋 ※1袋消費したら1袋買い足す（1人1食75g程度）	 乾麺（うどん・そば・そうめん・パスタ） ・そうめん2袋（300g/袋） ・パスタ2袋（600g/袋）	その他（適宜） ・LL牛乳 ・シリアルなど
	 カップ麺類×6個	 パックご飯×6個	
主菜 たんぱく質	 レトルト食品 ・牛丼の素、カレー等18個 ・パスタソース6個	 缶詰（肉・魚） ・お好みのもの18缶	
副菜 その他 （適宜）	 日持ちする野菜類 ・たまねぎ、じゃがいも等	 調味料 ・砂糖、塩、しょうゆ、めんつゆ等	
	 梅干し、のり、乾燥わかめ等	 インスタントみそ汁や即席スープ	 チョコレートやビスケットなどの菓子類も大事！
	 野菜ジュース、果汁ジュース等		

【参考】非常時の持ち出し袋

消防庁紹介「非常時持ち出し袋」



水 (1日2L×3日分)

食料品（すぐ食べられるもの）

救急セット

服用薬

携帯ラジオ

懐中電灯

乾電池

毛布

タオル

携帯トイレ

ウェットティッシュ

使い捨てカイロ

ヘルメット

防災ずきん

マスク

軍手

衣類

下着

洗面用具

モバイルバッテリー（充電器）

(6) 地区防災マップ
【芦屋ハイランド地区防災マップ】



警戒レベルと避難行動			
警戒レベル	状況	避難情報等	あなたがとるべき避難行動
警戒レベル 1	今後気象状況の悪化のおそれ	早期注意情報 気象庁が発表	災害への心構えを高めましょう。
警戒レベル 2	気象状況の悪化	大雨注意報 気象庁が発表	自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル 3	災害のおそれあり	高齢者等避難 芦屋市が発令	危険な場所から高齢者等は避難
警戒レベル 4	災害のおそれ高い	避難指示 芦屋市が発令	危険な場所から全員避難
—〈警戒レベル4までに必ず避難〉—			
警戒レベル 5	災害発生または切迫	緊急安全確保 芦屋市が発令	命の危険 直ちに安全確保！

各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

避難所一覧【土砂災害(大雨)】	
段階的に避難所を開設します。	
警戒レベル 2	被害が想定される場合に自主避難所として開設 索引 名称 所在地 G-7 シズカガ 町民センター 奥池南町41番1号 M-7 市民センター 業平町8番24号 K-8 岩園小学校 岩園町23番41号 J-7 潮見小学校 潮見町1番2号 自主避難所とは、事前の避難を希望される方を対象に最初に開設される避難所です。あらかじめ各自で食料品・日用品等を準備の上、避難所までお越しください。
警戒レベル 3	高齢者等避難 索引 名称 所在地 L-6 西山幼稚園 西山町22番15号 K-7 山手小学校 山手町8番3号 K-8 山手中学校 三条町39番10号 K-7 朝日ヶ丘小学校 朝日ヶ丘町10番10号
警戒レベル 4	避難指示 緊急安全確保 状況に応じてその他の避難所が開設されます。 ※奥池集会所、朝日ヶ丘集会所は土砂災害の危険があるときは開設されません。 ※国道2号以南の避難所が開設された場合は、裏面の津波防災情報マップで施設の位置を確認してください。
警戒レベル 5	

地図情報の凡例
広域避難場所 避難所が開設される場合に開設される避難所
避難所 避難所が開設される場合に開設される避難所
福祉避難所 避難所が開設される場合に開設される避難所
飲料水兼用貯水槽 避難所が開設される場合に開設される避難所
屋外拡声スピーカー 避難所が開設される場合に開設される避難所
防災倉庫 避難所が開設される場合に開設される避難所
地下道(アンダーパス) 避難所が開設される場合に開設される避難所
ヘリコプター臨時着陸場 避難所が開設される場合に開設される避難所
水位観測所 避難所が開設される場合に開設される避難所
河川管理施設(堤防・堰・橋等) 避難所が開設される場合に開設される避難所
土石流サイレン 避難所が開設される場合に開設される避難所

(7) 地区防災訓練の実施

災害発生時に、住民が「地区防災計画」に沿って適切な行動ができるよう、市や消防署等と連携し、以下の訓練等を組み込んだ「地区防災訓練」を定期的の実施していきます。

- ① 避難訓練（要配慮者（避難行動要支援者）支援を含む）
- ② 情報収集・伝達訓練
- ③ 消火訓練
- ④ 救出・救護訓練
- ⑤ 給食・給水訓練
- ⑥ その他、啓発活動

※訓練実施後は訓練結果を検証し、次回訓練に反映するなど、定期的に活動内容を見直し、必要がある場合は「地区防災計画」の見直しを行います。

(8) 資機材、器具等の点検

各班を中心として、資機材、器具等の点検を定期的の実施します。

班 名	内 容	時 期
消火班	消火器具の点検（整備）	地区防災訓練前
救出・救護班	救助・救護資機材・器具の点検（整備）	地区防災訓練前
避難誘導班	避難経路の点検（整備）	毎年 8 月
給食・給水班	給食・給水器具の点検（整備）	地区防災訓練前

(9) 要配慮者（避難行動要支援者）への支援体制の整備

福祉班を中心に、要配慮者（避難行動要支援者）の支援体制を整備します。

班 名	内 容	時期（目標）
福祉班	対象者の把握 （芦屋市からの情報提供含む）	毎年度 要配慮者を迅速に把握
	支援体制・方法の検討・整理	要配慮者把握後、速やかに検討
	個別計画の作成	要配慮者把握後、当該年度内
	定期的な個別計画の見直し	毎年度実施

